細々要記　南朝　三

和書門　類
三六六二五　號
一一二　函
一三　架
三　冊

内閣文庫
和書　類
三六六二五　號
一一二函
一一架
三冊
175

内閣文庫
番號　和　36625
冊數　3（1）
函號　162　175

国立公文書館
National Archives of Japan

日本政府圖書

細々要記一

元弘四年正月廿九日改元アリテ建武元年トス漢朝ノ年号ヲ摸サル同比都ニハ大内裏造営ノ御沙汰有ヨシ云々去年ノ冬ヨリ内裏ヲ四方ニ一町宛廣ケラレ宮殿ヲ造リ添ラルヽト云トモ猶分内セハク朝庭ノ禮儀ヲ調ヘラレカタキユヘ詮義有テ催サルヽ所ナリト安藝周防料國ニヨセラレヽハ廿余州所領ノ得分

二十六日一日懸アリシヨシ云云大内裏ハ安元三年四月焼亡
ノ後造営ノ御沙汰ナカリシ所兵乱ノ後國費民苦ム
ノ時大内裏ヲ造ラルヽコト不可然ト傾ケ申スノヨシ風聞
二月三日紙銭通用ノ儀仰出サレ諸國ノ地頭御家人
ノ所領ニ課役ヲカケラル先例イマタナキノ所ナリ
三月諸國疫癘病死スル者多シ
四月筑紫ニ規矩兵庫助糸田左京亮ト云平氏ノ
一族前亡ノ餘類ヲ集メ乱ヲナスヨシ同廿二日西室備正ヲ
敗去大和河内両國ノ賊等蜂起飯盛山ニ上リ城郭
ヲ営スルヨシ南都騒動ス近邊悉物忩
五月河内ノ守護楠判官正成京都ヨリ帰国四日般若
寺ニ宿ス其勢三百騎計四日ノ夜般若寺ヘ使者ヲ
遣シ音問明日出陣ノヨシ云云
五日辰ノ刻楠判官河内ヘ趣ク

九日飯盛山ノ凶徒打出タルヨシ風聞物忩ナリ
十一日飯盛山合戦アリト云〻
京都ニ今度ノ逆徒追伐御祈ニ安鎮ノ法ヲ修セラルヘキヨシ南都ヨリモ僧綱ヲ召ル紫宸殿ニ於テ修法セラル導師竹内慈厳僧正ト云〻鎮壇應護ノ兵士ハ結城左衛門尉伯耆守楠舍弟七郎塩冶判官等四門ノ警衛ニテマモル南庭左右ノ陣ハ千葉助三浦助ヲ召サルヽノ所両人相手ヲ嫌ヒ申ニヨリ已ニ法會ノ違乱ニ及フ儀ニ大嶋讃岐守細川阿波守両人ヲ召ニテマモルヨシ云〻同比南海伊豫国ニ平氏餘類赤橋何某云者逆乱ヲ起シ国中騒動スルヨシ
五月都ニハ兵革ノ餘殃ヲ銷セラレカタメ真言秘密ヲ修セラルヘキヨシニテ儀ニ神泉苑ヲ造ラルト云〻
七月飯盛山ノ凶徒今ニ至テ降セス合戦アリ西国九州

モマタノ如此ト云々同中旬ノ比ヨリ内裏ニ夜々怪鳥飛来リ
鳴聲ノ雲ニヒヽキ聞人恐ルト云々兵革後餘殃鎮セサルカ
八月中旬殿下ノ御内隠岐入道心寂カ子左衛門尉入道
弘寂勅ヲ蒙リ怪鳥射ル彼鳥紫宸殿ノ上ニ飛下リ
鳴トコロヲ十三束ノ流鏑矢ヲモツテ射當鳥ハ仁壽殿ノ
軒ヨリ竹臺ノ前エ落ルト云々其状千頭ハ人ノ如ク身ハ
蛇ノ形觜曲ツテ歯生違両ノ足ケツメ有テ利クノ羽
サキヲ伸テ其ハ長サ一丈八尺有ト云々希有ノ鳥ナリ廿二日
彼鳥ヲ東山ニ埋ラル由風聞路次ニ於テ見物ノ多ク貴賤
郡集スト云々
十月朔日飯盛山ノ城没落西室僧正ヲ始凶徒コトコトク
被討捕其外生捕數ヲシラス申ノ剋飯盛山ノ方焼亡ノ
烟立ステニ落城タルヨシタシカニ云々ノ所成實坊摸及ヨリ
帰院ツフサニ聞トコロ相違ナシ

十月廿九日於内裏大塔宮ヲ執奉リ馬場殿ニ押籠リ
奉ルヨシ云々蜜ニキク足利治部卿讒言ヲカマウルカユヘト云々
マタ宮叛逆ノ御企アルカユヘトモ云不分明是ニヨツテ世間
物窓ナリ

十一月上旬大塔宮ノ侯人三十余人密ニ誅セラルヨシ云々

同中旬大塔宮ヲ細川陸奥守顕氏請取奉リ関東ヘ
御下向左馬頭直義カ鎌倉ニアルニ預ケラルヘキヨシナリト云々

同比筑紫伊豫ノ賊徒コトコトクニ敗北ニ伏誅首トモ京都
ニテホルヨシ風聞

大塔宮鎌倉ヘ御下向二階堂谷ニ土牢ヲ塗直進ラス
御介錯ハ保藤卿ノ女新按察典侍一人ヨリ外著副マヒラ
スル人ナキヨシ云々帝一旦ノ逆鱗ニ鎌倉ヘ下シ進ラセラルト
云トモ是迄ノ沙汰アレト叡慮赴サルヲ直義日比宿意アル
ヲ以テ禁籠シ奉ルノヨシ風聞

去ル十月五日万里小路中納言藤房卿遁世出家行方
ヲ不知ト云云藤房卿連々帝ニ諫奏ヲ上ル事アリト云ト七
御許容ナキニ依テ身ヲ退クト云云年三十九歳ト云云父
宣房卿悲歎タクヒナキノヨシ云云
建武二年夏六月末西園寺大納言公宗卿勅勘召
捕ラル同廿六日勘罪名八月二日被誅ト云云日野右兵衛
佐氏光文衡入道ホコトコトク誅セラルト云云文衡入道
拷問セラレ白状ニ及フ所先亡平氏四郎左近大夫入道
ヲ去々年ヨリ西園寺ノ亭ニカクシ置キ今度謀叛ヲ企
帝ヲ失ヒ奉ルヘキ種々ノ計略アリケルカ事又露顕ニ及フ
ト云云
七月信濃國ヨリ凶徒蜂起襲鎌倉ノヨシ風聞世上物
忩ナリ北国ニモ凶徒蜂起ノヨシ云云天下弥穏ナラス信
濃国ノ凶徒ハ先亡相模入道ノ二男亀寿丸ヲ大將ニ

取立諏訪上ノ宮祝頼重三浦介助葦名清久守大名多ク
クミシニテ数万騎ニ及フト云〻
同中旬信州ノ凶徒上野国ニ打入合戦岩松左衛門尉新田
四郎等ノ官軍敗北行方ヲシラスト云〻其後鎌倉ヨリ
渋川刑部少輔小山秀朝等ノ兵ハ数千人發向久米河
女影カ原ニテノ合戦官軍敗北シテ小山渋川ヲ初一族家人
数百人自害スト云〻信濃国ノ凶徒イヨ〻勢ニノリテ鎌倉
ニ攻上ル聞直義以下馳向防キ戦フト云トモ無勢ノ間カナヒカタ
ク鎌倉ヲ出テ成良親王ヲ具シ奉リ京都エ上ル直義ハ武蔵国
エ打出ル處ニ猶凶徒攻カヽルユヘ直義カ一族細川四郎頼貞入
道返シ戦ヒ家人百余人トモニ討死此間ニ成良親王并直義
京都エ落上ルト云〻
同下旬亀寿丸相模二郎時行ト号スルヨシ鎌倉エ討入関東
ノ侍并在国ノトモカラハ皆鎌倉ニ附従フノ間天下又打返シ

テミユルホトニ京都ハ勿論諸国トモ騒動斜ナラストゾ云々
八月二日足利宰相尊氏卿相模ニ下向追伐ノ勅命ヲ蒙
リ海道ニ下向其勢五百騎ニダニタラス無勢ノヨシ人アヤシミ沙汰
ストゾ云々今度東八ケ国管領ヲユルサレ時行誅伐ノ後ハ征
夷将軍ニ補セラルヘキヨシ勅約アリトゾ云々此両條ハ天下治乱
ノ端ナリ左右ナク勅許ノコト如何アルヘカラント世上傾ケ申ス
ノヨシ風聞アリトゾ云々

同日今度凶徒誅伐ノ御祷トシテ西大寺ニ於テ一日百座ノ
大威徳明王ノ法ヲ修行其後聞其日鎌倉ヨリ凶徒数
万人京都ヘ攻上ルヘキ用意ヲナス其処俄ニ大暴風吹家々ヲ
吹破ルノ間天災ヲノカレンタメ近辺ニ宿ル軍士大仏殿ノ中ヘ
逃入ル処仏殿ノ棟二ツニ折倒レケルノ間集リ居処ノ軍士
数百人壓ニウタレ死スルトゾ云々則大威徳ノ法行レシ日ナリ
尊氏卿東八ケ国管領ノコト勅許ナルノ間上野国モ尊

氏卿ガ国ナリ上野ハ去々年ステニ新田左兵衛督ニ賜ル
所ナルユヘ義貞帝ヲ恨奉リ野心アリト云々
八月八日遠江橋本ノ宿ニ於テ尊氏卿ノ勢凶徒ト合戦
終日凶徒敗北スト云々
同十八日相模川ニ於テ合戦終日ト云々官軍今河式部
大輔入道父子小笠原七郎父子以下数百人討死シタリ
ト云トモ凶徒終ニ没落スト云々

十九日鎌倉合戦凶徒敗北諏訪前祝部頼重ヲ初宗徒ノ
者数十人大御堂ノ内ニ入テ自害滅亡スト云々其外生捕
降参ノ者数ヲ知ラスト云々去七月下旬ヨリ八月十九日ニ至リ
二十日アマリ彼相模二郎二度父祖ノ舊里ニ至カヘルト云トモ
幾ホトナク没落左馬頭鎌倉ニ打入凶徒ノ中曽テ補佐
古老ノナシ大将時行イマタ幼弱ナリ其外平氏門葉去々
年タマタマ身命ヲ助リ諸寺ニ於テ小僧喝食トナリタル

者俄ニ還俗スト云トモ烏合ノ衆其功ヲナサヽリシト云々尊
氏卿鎌倉ニ居セラ威勢甚シトモ云々風聞ニ云尊氏卿
反逆ノ企シキリナルヨシ云々
九月中旬尊氏卿隠謀ノ企アルヨシ風聞シキリナリ十九
日中院頭中将具光朝臣勅使トシテ鎌倉ニ下向ト云々是
今度東国ノ逆乱討静謐ノ条叡感アリ但軍兵恩賞
ニ於テハ京都ニ於テ論有ヲ以テ宛行ルヘキナリ尊氏
卿ハ先早々帰洛有ヘキヨシ仰下サルヽノヨシ云々二
十月中旬勅使具光（本ノマヽ）帰洛サレトモ尊氏上洛セス巷説種
々ナリ十一月上旬尊氏卿ノ奏状京都ニ着義貞朝臣モ奏
状ヲ捧タルノヨシ云々其ハ意趣互ニ従来ノ欝恨ヲ以テ彼ヲ誅
伐シ泰平ヲ致スヘキヨシ奏シ申スト云々
同中旬大塔宮ノ御介錯ニ附進ラセシ新按察典侍帰洛
シテ申ス去ヌル七月相模二郎以下鎌倉江打入時直

義カ計ニテ渕部何某宮ヲ害シ奉ルノヨシツフサニ奏聞
是ニヨツテ尊氏卿兄弟ノ隠謀疑ナキニキハマリ急ニ討ノ手ヲ
下サルヘキヨシ京都騒動スト云々世上物忩シ是ニヨツテ京都
伺候ノ人々ノ親類代官ハ京都エ上リ尊氏卿ヘ親シキ輩ハ又
京ヨリ逃下ルノ間海道上下ノ輩儀ニ織縞ノ如シト云々
同十九日中務卿親王ヲ東國ノ管領ニナシ奉リ公卿殿上
人其数ヲシラス武家ノ大將ハ新田左兵衛督并一族在京
ノ武士サルヘキ侍西國家門ノ勢数万人東征スト云々同日
義貞朝臣命ヲウケ舟田入道以下ヲ尊氏卿宿所
二条高倉エ遣シ焼拂フト云々
同廿一日搦手ノ大將軍大智院宮弾正尹宮左衛門督
實世卿武士ハ江田修理亮大舘左馬助以下中國九州ノ
勢数千人東山道ヨリ発向スト云々
十一月廿五日節度使義貞朝臣ノ官軍三河國矢矧ニ

着既ニ昨廿四日鎌倉ヨリ直義ヲ大将ニテ数万人矢矧
ノ東ノ宿ニ着ノ間今日東国ノ軍士河ヲ渡シ合戦数
刻直義カ兵士許多ノ討死シ終ニ敗北スト云々
同廿八日鷺坂ニ於テ合戦直義カ軍敗北スト云々
十二月五日手越ニ於テ合戦終日夜ニ入東軍敗北スト云々
度々ノ合戦官軍勝利タルノ間降参ノ人々数ヲシラスト云々
十二月上旬北国中国四国九州凶徒蜂起ノヨシ国々ノ早馬

京都エ連綿タルノヨシ騒動ス世上物忩云ハカリナシト云々
十二月十一日箱根竹ノ下合戦箱根ノ追手官軍利アリト云
トモ搦手竹ノ下ノ戦勝利ヲ失ヒ公家ノ人々両三人討死ス官軍
ノ士海道ヲ引退クノ間追手ノ勢モコトコトク敗北シ義貞朝
臣以下尾張国迄引退ノヨシ云々是ニヨツテ京都イヨイヨ騒
動大和河内ヨリモ軍士多ク上洛ス物忩ハカリナシ
同十九日西国ノ動乱以ノ外間義貞朝臣ヲ召還サルヘキ

ヨシニテ勅使ヲ立ラル丶ト云々
廿五日義貞朝臣以下京都ニ帰参スト云々
同日楠判官正成河内ニ帰国南部ヲヘテ廿六日赤坂ニ
至ルト云々
廿九日楠判官マタ上洛昨廿八日ヨリ米穀数百石河内ヨリ
江州坂本ヘ運送スルノヨシ人馬ラクエキタリト云々東国ノ
凶徒襲来ノ間京都合戦アルヘキヤ其兵粮用意ノタメ
ト風聞スト云々トモ其意ヲシラス今日南都ヘ勅使下向朝敵
誅伐ノ御祈ヲ仰下サル
今日聞西国ノ凶徒以ノ外多勢細河ノ師定禅大将トナリ
赤松月潭入道同子息等以下并四国中国ノ勢一円ニ
数万人ステニ兵庫明石ノ辺ニ発向スト云々
マタ聞丹波但馬等ノ凶徒数千人発向ステニ和久ノ郷
辺ニ到ルト云々小国ノ凶徒ステニ以ノ外コトコトク入洛スヘキノヨ

シ日本国中蜂起セサル所ナキノヨシ風聞天地モ打カヘス
ヘキコトクノ南都邊ニイタルマテ物忩云ハカリナシ
マタ聞諸国蜂起ノ沙汰以ノ外ノアヒタ京都ノ軍勢
過半没落凶徒ニ加ハルカト云々
宇治勢田大渡山崎等ニ於テ防戦アルヘキヨシ楠一正氏
伯耆守船田入道同長門守等晦日京都ヨリ発向其
用意ヲヒタヘシト云々

山門ヨリ道場坊以下数百人江州エ発向スト云々是
東国ノ凶徒ヲサヽエンタメナリト云々伊波代ノ宮ヲ儀城ニ
カマヘテ楠コモルト云々
丹波路ノ凶徒以ノ外ノヨシ二条大納言殿数百騎ヲ率シ
発向セラルト云々

細々要記二

建武三年正月大乱ニヨッテ内裏ニ節会朝拝行ハレサルノヨシ云々京都ノ騒動言語ヲ絶スルノヨシ云々

同
国七日尊氏卿兄弟東国ノ軍士ヲ引テ江州ニ着陣其勢数十万人山野一遍ニ充満スト云々

同日四国西国ノ凶徒摂州ニ至ル其勢マタ数万人ト云々

洛中イヨイヨ騒動人馬東西ニ馳違物忩云ハカリナシト云々

今日西郊ヨリモ又凶徒三百人京都エ進ラス兼日召サル丶
ニヨツテナリスクニ山崎ノ固メニ向フノヨシ云々
今日申刻宇治ノ在家コトゴトク焼亡餘煙平等院ニウツ
リテ佛閣宝蔵焼失煙リ蒼天ニ充後ニ聞楠判官宇治ノ
固メトシテ凶徒ニ心安ク陣トラセシトテ火ヲカケタリ
同九日山陰道ノ凶徒数千人大枝山ニ陣スル処官軍江田
行義以下馳向テ打破ル凶徒敗北大将久下五郎以下数
十人ヲ討取生捕数ヲシラスト云々
同十日諸方ノ凶徒同時ニ襲来ス宇治勢田大渡山崎等
合戦午刻山崎ノ官軍戦ニフクシテ凶徒乱入ノ間諸方
ノ官軍攻ロヲ捨テ帰洛淀ニ於テ又合戦数刻官軍
敗北討死多シト云々
同日主上山門エ臨幸公家武家コトゴトク供奉東坂本ニ
皇居ト云々同日酉刻内裏炎上其外公武ノ第宅民

星ニ至ルマデ燒亡餘烟空ニ滿火ノ光天ヲ燒世上物忩云ハ
カリナシ同日結城白河判官親光京都東洞院東七条
ニヲヒテ討死ストモ云ヽ其相手大友左近將監同時ニ被討トモ云
同十二日南都ヨリマヒル所ノ兵士帰寺手負百余人討死
ノ輩廿七人其余ツカナシ
同十四日陸奥國ヨリ親王ヲ先立奉リ陸奥守鎮守府
將軍顯家卿コノ乱ヲ聞陸奥出羽ノ軍兵数万人ヲ率

シテ今日東坂本ニツクノヨシ官軍大ニ力ヲ得ノヨシ云ヽ
同日江州観音寺ノ城合戦城中ノ凶徒没落行方ヲシラ
ス官軍大舘中務大輔幸氏カ軍士コレヲ攻破ルトモ云ヽ
同日尊氏卿ノ命ヲ受細河律師同刑部大輔頼春
陸奥守顯氏以下数万人江州エ発向三井寺ニ陣ス彼寺ノ
衆徒凶徒ニ同意カトモ云ヽ
同十六日官軍数万人三井寺ヲ攻テ合戦細川カ軍敗レテ

京都エ逃上ルト云々其刻官軍三井寺ヲ焼拂諸堂院々
コトゴトク焼失スト云々
同日官軍京都エ攻上リ二條河原將軍塚鹿ケ谷真如堂
邊所々數刻合戰アリト云々
同廿日去年東山道ノ搦手トシテ東國エ下向有ケル大智
院宮彈正尹宮使別當實世卿以下軍兵數万人ヲ率シ
テ申刻東坂本ニ着スト云々官軍弥イキホヒヲ得ト云々

同廿七日官軍數万人西坂ヨリ下リ或ハ大津ヲ經テ京都エ
攻入リ合戰數刻京方敗北シ上杉兵庫入道三浦因幡守
二階堂入道ヲ始宗徒ノ者數百人討死スト云々
同廿九日官軍顕家卿義貞朝臣楠結城伯耆以下數万
人西坂ヨリ下リ京都エ攻入合戰尊氏卿敗北行方ヲシラ
ス凶徒コトゴトク没落シ死人生捕數ヲシラズト云々
二月三日尊氏今攝州兵庫ニ落トヾマリ敗軍ノ士ヲアツメ

マタ京都エ攻上ルヘキヨシ云々
同五日官軍顕家卿義貞朝臣両大将数万人ヲ率
西国下向スト云々
同六日豊嶋河原ニ於テ合戦アリ数刻ニ及ンテ尊氏卿
敗北マタ兵庫ニ陣スト云々
同八日兵庫湊川ノ邊ニ於テマタ合戦数刻尊氏卿
敗北船ニ乗テ西国エ没落死人生捕数ヲシラス其上降
人数千人ニ及フノヨシ云々
去ル廿九日尊氏卿京都ヲ没落ノ間去ル四日主上坂本ヨリ
還幸花山院ヲ皇居ニナサルヽノヨシ云々是内裏兵火ニヨツ
テナリト云々
同十一日顕家卿義貞朝臣帰洛其勢数万人マタ今度
降人ノ輩一万人ヲ相具スト云々
同十二日臨時ノ除目ヲ行ハレ義貞朝臣叙正四位上左近

中将ニ任ス今度都鄙数ヶ度ノ合戦勲功ノ賞ハクタリト云々
同廿九日改元延元ト号ス近日朝庭已ニ尊氏卿ノタメニ
傾ケラレント欲スル所ホトナク静謐ニ属シ天下ニ帰ス京都ハ
勿論諸国ノ人民迄モ安堵ノ思ヒヲナシスト云々
同日顕家卿補使別当右衛門督ヲ兼マタ親王ヲ守
護シ奉リ奥ニ帰国シ玉フト云々今度本ノ両国ニ常陸
下野ヲ賜リテ下向ト云々是尊氏ノ筑紫ニ落行小貮
大友ヲ味方トシ菊池ト合戦有ケルニ菊池打負ヘテ引退ノ間
九州二嶋コトコトク尊氏卿ニ靡キ従其機ニ乗シ中国ノ西従
雲霞ノ如ク蜂起スルノヨシ諸方ヨリ京都ヘ急ヲ告ルノ間
東国ノ事モヲホツカナシトテ顕家卿ヲ帰シツカワサルヽト云々
世上物忩ナリ
同日義貞ハ朝臣ニ中国十六ケ国ノ管領ヲ許サレ尊氏卿
追討ノ宣旨ヲ下サルト云々

三月四五日比京都ヨリ江田兵部大輔行義大館左馬
助氏明二人大将トシテ数千騎ノ官軍ヲ率ヒ西国ヘ下向
スト云〻義貞朝臣西国発向セラルヘキノ所ニ瘧病ニ犯サレ
煩シキノ間軍勢ヲ差下サルヽト云〻
同七日八日ノ比播州室山ニ於テ官軍ト赤松合戦官軍
勝利ト云〻
同十四日官軍ノ大将義貞朝臣数万騎ヲ率ヒ西国ヘ発向セラルト云〻

同廿五日官軍赤松カ籠リタル白籏城ヲ取囲テ攻ルト云〻
赤松ノ城堅固ニシテ落カタキユヘ四月二日官軍勢ヲ分ケ
テ舩坂ヨリ備前備中ヘ発向スト云〻
同十九日舩坂山合戦ニ凶徒敗北シ逃走ルノ間官軍三手ニ
分レテ備前備中美作三ケ国ヘ発向シテ諸城ヲ攻ルト云〻
四月下旬尊氏九州ヲ討従ヘ数十万人ノ軍ヲ率ヒ攻上
ルト云〻是ニヨツテマタ京都物忩シ去ヌル六日持明院法皇

崩御後伏見院ト申奉ルヨシ云々
此頃キリ後伏見院ノ御子今ハ先帝新院ト申奉ルカ忍テ
尊氏卿ノ許ヘ綸旨ヲ下サル早ク凶徒ヲ退ケ君ヲ本位
ニ即奉ルヘシト尊氏九州ニテ彼綸旨ヲ拜シ悦ヒテ西国ノ
勢ヲ引具テ攻上ルト云々
五月五日尊氏直義ノ軍勢備後ヨリ攻上ルヨシ京都
騒動ス

同十六日備中国福山ノ城合戦
同十八日官軍備前美作ノ陣ヲ掃ヒ播磨ニ引退クヨシ云々
同廿三日官軍播磨ヲ引テ兵庫ニ退クノヨシ早馬京都エ
着是ニヨツテ京都イヨイヨ騒動スト云々
同日楠判官正成勅ヲ受兵庫エ下向其勢五百騎ハカリ
ト云々
同廿五日兵庫湊川合戦數刻官軍敗北楠判官振武威

ニテ討死スト云〻義貞朝臣ヲ初メ其外官軍丹波路ヨリ
京都エ逃上ルト云〻京都ノ騒動云ハカリナシト云〻
同廿七日主上重テ山門エ臨幸公家武家コト〻ク供奉ニテ
東坂本エ落ルト云〻
同卅日尊氏々直義朝臣数十万騎ヲ率シ京都ニ入東寺ニ陣スト云〻
同日新院東寺エ潜幸日野資名入道三條實継朝臣
等供奉ト云〻

或云廿七日潜幸スト云〻本院東宮ハ廿七日主上ト同時ニ東坂
本エ御幸ナリスト云〻新院東寺本堂ヲ皇居トス久我内大
臣ヲ初落留ル所ノ人〻東寺エマヒルト云〻即一方ノ皇統ヲ
立ラルト云〻
六月四日尊氏卿山門ヲ攻ヘキタメ数十万人ニ條河原ニ於
ニテ着到ヲツケ勢ヲ揃フト云〻其後二手ニ分レ東西ヨリ
山門ヲ取カコミテ攻ルト云〻

同七日山門西坂合戦数刻千種宰相忠顕卿坊門正忠
朝臣以下討死ステニ攻破ラルヘキノ所義貞ノ朝臣東坂本ヨリ
馳ツキ官軍戦ヒ強ク寄手敗北死人数千人ニ及フト云々
同九日東坂本合戦寄手聊[本ノマヽ イサヽカ 聊カ]利ヲ失ヒ本陣エ退ク一時斗合
戦ト云トモ死人数ヲシラスト云々
同十六日西坂本合戦寄手利ヲ失ヒ退ソト云々
同廿日東西ノ坂本同時ニ合戦寄手敗北コトヽク退散ス死人
生捕数ヲシラス西坂寄手ノ大将高豊前守被生捕
義貞ノ朝臣命シテ重衛[本ノマヽ 衡カ]卿ノ例ニ任セ山門ノ大衆中請
辛崎ノ濱ニ於テ首ヲ刎ルト云々
同晦日官軍数万人西坂ヨリ京都エ攻入合戦官軍ノ
敗北スト云々
七月十八日官軍マタ京都エ攻入合戦数刻官軍敗北
討死数百人ニ及フト云々

同廿二日山門ノ牒状南都ニ到ルヨツテ大衆蜂起シ僉議
即チ返牒ヲ送ル大乗院法印草ス
興福寺衆徒牒延暦寺衙
来牒一紙被載尊氏直義等征伐事
牒夫観行五品之居勝位也學子多傾於河淮之流等
覚人無垢之因上果也敷ヲ儀於印度之境是以諸高祖
玄文玉泉水清唐文皇奮神爲栄瑤花風芳遊使一
夏敷揚之奥頻遂傳于叡山三國相承之眞宗獨
留于吾寺以降時及千祀軌垂百王寔是弘佛法之宏
規護皇基之洪緒也彼尊氏直義等遠蛮之亡虜
東夷之降卒也雖非鷹犬之才屢忝爪牙之任忘
朝奬還挿野心討楊氏兮爲辭在藩漢兮作逆却
畧州縣掠虜吏民帝都悉燒殘佛閣多靡滅軼赤
眉之入咸陽起黄巾之寇河北濫吹之甚自古未聞聞

天誅所覃冥譴何逃因茲去春之初鋤耰棘矜一摧
関中舊匹馬隻輪纔遁海西矣今聚其敗軍擁彼餘
衆不恐雷霆之威重待斧鉞之罪六軍緋細群兇盗
振是則孟律（本ノマヽ 津カ）再駕之役獨夫所亡也夫違天者有大
咎失道者其助寡積暴之勢豈又能久乎方今迴
皇輿於花洛之外張軍幕於猶溪之邊三千群侶定
合懇祈之掌七社靈神鎮迴擁護之眸者欲彼代
宗之邑長安也觀師於香積寺之中句踐之會稽
也陳兵天台山之北事惱先蹤寧非佳模乎爰當寺衆
徒等自羽翠苑北牽柚丹棘於中庭專祈宝祚之長久只期
妖孽之滅亡精誠無貳冥助豈空乎就中寺邊之若輩
國中之勇士頻有加官軍之志屢遂退凶賊之策然而南北
境阻凡馬之蹄不及山川地殊雲鳥之勢難接矣亦賊徒
搆謀寇迫赤壖之下人心未和禍在蕭牆之中前對燕

然之處後有究城之軍攻守之間進退失度但綸命
屢降牒状難默速卒鋭師早征凶徒今以状牒到
准状故牒
廿六日軍士五百人ヲ發シ八幡ニ陣ス四条中納言隆資卿
山門ヨリ八幡ニ到リ大将軍タリ南山城ノ軍勢馳集リ
数千人ニ及フ是併南都与力ノ餘勢タルカト云々
八月十二日八幡ノ勢京都ヘ發向シ東寺ヲ攻テ合戦味方
敗北シテリ退ソト云々
同日官軍西坂ヨリ下リ京中合戦数剋官軍敗北伯耆
守并一族数十人討死其外手負討死数ヲシラスト云々
十四日四条中納言八幡ヲ退散セラルヽニヨツテ南都ノ軍
士モ退キ酉剋帰參手負五十余人死人廿三人ナリ
廿二日尊氏卿ヨリ使者参着種々申サルヽ旨アリ且数ケ
所ノ庄園ヲ寄附アリ依テ山門合體ヲヒルカエシ武家

與力ノ約ヲナス旨議一決
九月十七日江州野路篠原合戦山門ノ大衆多ク被討
取敗北スト云々
同廿日重テ山門ヨリ数千人ヲ遣シ江州四十九院合戦大
衆亦敗北数百人討死スト云々
同廿九日山門ノ兇徒官軍数百人相雑リ重テ三大寺
合戦官軍マタ敗北死人数十人ト云々

十月九日尊氏卿ヨリ内々山門ノ主上ヘ申入ラルヽ旨アルニ
ヨリ今日京都エ還幸供奉ノ公家武家数百人ト云々
シカルニ新田ノ人々サヽヘ申ニヨリ御延引
同十日主上イヨヽヽ京都ヘ還幸春宮恒良并尊良親
王義貞ハ兄弟等北国ノ方ニ没落シカシ其勢数千騎
ト云々妙法院宮ハ東国エ御没落ト云々
同十二日公家武家ノ族人多ク南都ヲ経テ河内ヘ赴クト云々

主上還幸ノ後花山院ヘ入奉リ四門ヲ閉武家ヨリ兵士ヲ遣シ警固シ
出入ヲ止ム還幸供奉ノ公武トモ大名トモヘ召預ケラレカタク禁固スト云々
十一月廿七日聞去スル十月春宮并義貞ハ朝臣等越前ニ到
金崎ノ城ニ入諸国ノ将軍方敵方ハ金崎ヲ取カコンテ攻ルト云々
十二月上旬北畠大納言入道伊勢国ニ於テ義兵ヲ揚国中
ヲ赤靡カス是ニヨツテノ諸国ノ宮方マタ蜂起スト云々
去スル廿五日都ニハ尊氏公参議右兵衛督ヲ辞シ大納言ニ

任スト云々
十二月廿二日先帝花山院ヲ忍ヒ出サセ玉ヒ吉野ヘ入御其路
南都ヲ経玉フヨシ知者ナシ吉水院ヲ皇居トス近国武士
馳参リ其勢雲霞ノ如シト云々
京都ニハ延元ノ号止テ建武ノ暦ヲ用ユ
建武四年先帝ハ吉野ニ御座延元二年ヲ用ラルト云々
三月六日越前金崎城没落尊良親王及新田越後守

義顕ハ大夫行房以下数百人自害東宮ハ京都江還幸
則牢ノ御所ヲツクリ推籠ノ奉ルト云々
四月五日近衛関白経忠公吉野エ参候其外公卿殿
上人追々伺候セラルト云々
九月十一日義貞朝臣兄弟マタ北国ヘ打出所々合戦有ト云々
同比諸国ノ宮方蜂起国々合戦
奥州国司北畠顕家卿マタ親王ヲ先ニ立奉リ数万人
攻上ルト云々武家騒動スト云々
顕家卿ノ官軍鎌倉ヘ攻上リ上野利根河武蔵国所々合戦
武家方敗北スト云々
其後官軍鎌倉攻入ニヨリテ尊氏公長男義詮ノ幼弱ノ
大将トシテ桃井上杉斯波等以下数千人発向シテ戦フト云々
建武五年南方延元三年正月鎌倉合戦武家方敗北
義詮以下行方ヲシラス顕家卿ノ官軍海道ヲ攻上ルト云々

京都物忩ニ同廿四日濃州青野原合戦ト云云

二月四日顕家卿ノ入洛ヲサヽエンタメ京都ノ勢数万人濃州ニ發向スト云云

同十三日顕家卿ノ官軍伊勢伊賀ヘヲ経テ今日南都ニ到着東大寺大佛殿ヲ本陣トセラル其勢皆邊鄙ノ夷狼籍云ハカリナシ

顕家卿ノ官軍近日京都エ攻上ルヘキ其用意シキリナリ

同廿九日夜京都ヨリ桃井播磨守直常等以下数千人顕家卿ノ陣ヲ襲テ合戦雞明ニ及フ顕家卿敗北官軍八方ニ退散中納言光継卿ホ以下死人数百人生捕数ヲシラス親王ハ吉野ヘ入御顕家卿ハ河内エ到ト云云

三月五日顕家卿舎弟顕信朝臣以下官軍ヲアツメ八幡ヘ出張シタテ籠ル京都ノ勢マタ数万人一圓ニ八幡ヲ囲テ戦フト云云

四月廿日顕家卿以下天王寺ニ陣シテ京都ヲ攻ント欲スルヨシ云云

五月十八日吉野勢数万人天王寺ヘ押寄合戦数剋官軍
敗北同廿二日和泉国堺浦合戦数剋官軍敗北顕家卿討
死其外従兵コトヽヽク死スト云々吉野帝ヲ始奉リ人々力ヲ落シ
気ヲ失フト云々
此比義貞朝臣北国所々ノ城ヲ攻落其勢又数万人ニ及ビ勢
ヒ遠近ニフルウト云々
七月義貞朝臣ノ官軍数万人山門ニ登リ京都ヲ可攻
タメ越前ヲ発シ上洛スト云々
同十一日八幡ノ社檀兵火ノタメ焼失官軍兵粮ヲ社檀ニ籠置
ノ間コトヽヽク焼失力ヲ失ヒ其夜退散シテ河内ヘ帰ルト云々
閏七月越前国足羽ノ城度々合戦二日足羽合戦官軍ノ
大将義貞朝臣流矢ノタメ被射テ死スト云々是ニ依テ官軍
コトヽヽク敗北スト云々顕家卿義貞朝臣討レ玉フノ間南方ノ
人々気ヲ失フト云々

九月義良親王ヲ補佐シ奉リ春日少将顕信朝臣新田
左兵衛佐相模左馬権頭結城入道道忠宇都宮公綱等
東国ニ下向トシテ合戦南都ヲ経テ伊賀路ニヲモムク
同十八日妙法院宮北畠一品入道同シク東国ニ赴ク午ノ
刻南都ヲ経テ伊賀路ニイタル両日発向ノ官軍数千人
ニ及フ
九月廿五日東国下向ノ官軍遠江天龍灘ニ本のまゝ難風ニ遇
数ノ船漂没ス親王ノ船ハ勢州ニ帰着北畠入道ノ船ハ常
陸国ニ到ルト云々其外行方ヲシラスト云々
十月三日親王吉野ニ還御今日南都ヲ経玉フ春日少将
以下供奉其勢貮百騎ハカリ云々
去ル八月廿八日京都改元有テ暦応元年ト号スト云々
今度ノ除目ニ尊氏卿上首十一人ヲ超正二位征夷大将軍
ニ補ス直義朝臣従三位ニ叙シ并相模守ト云々

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan